

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	KINETIC OBSIDIAN		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG 0.038	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：KINETIC OBSIDIAN

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

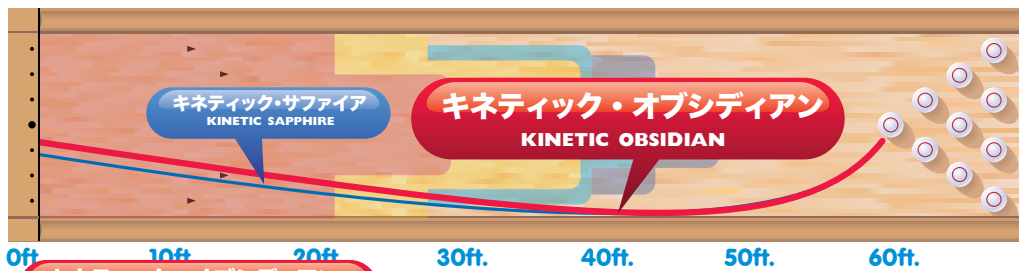
比較対照ボール：KINETIC SAPPHIRE

フレアーの幅 インチ

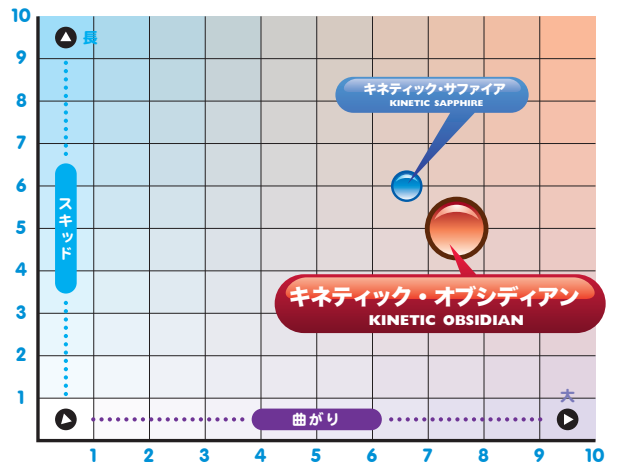
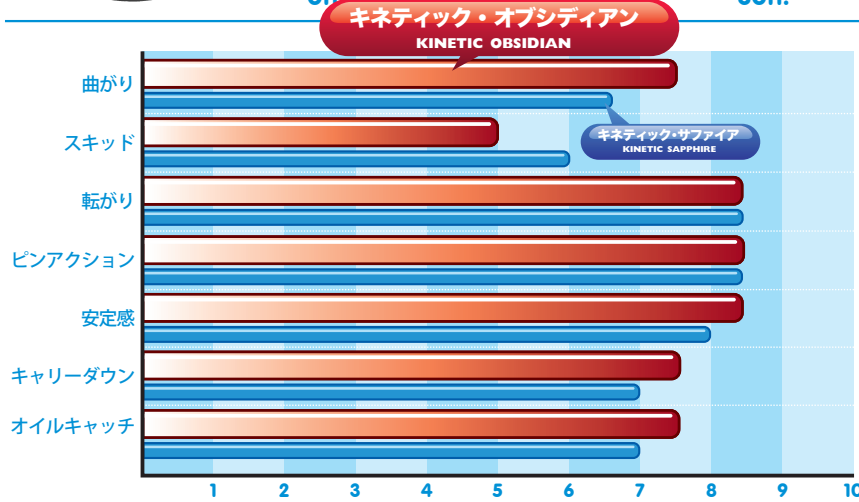
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社の中で今もなおロングランでさまざまなパフォーマンスを提供し続けてくれているKINETICシリーズ。今回のKINETIC OBSIDIANはKINETIC代名詞のMODIFIED KINETIC CoreとKINETIC史上最大値のDR-7 Solid、2000Abralon仕上げという対オイルに積極的に向き合えるスペックで登場しました。領域が”7”レベルでSolid素材、2000Abralonなので意外と動きはもたつくのかな?と思っていた印象は投球してみるとイメージがかなり異なり、噛み具合はあるものの噛み過ぎないところがMid Performanceを越えてUMP(Upper Mid Performance)に踏み込むところまで感じることができるので、KINETICコアのしなやかな安定した動きをややオイルを感じる時に使用することもできます。

私のKINETIC OBSIDIANの一番のオススメの使用方法はポリッシュ仕上げで、”7”領域のオイルキャッチ、Solid素材、ポリッシュ加工、KINETIC Coreはほぼ初期型のKINETICに近いパフォーマンスが出ており、ミディアムコンディションから以下を抜群の安定感、読みやすい軌道、柔らかいピンキャリアはほぼ完璧に近い形でコンディションを攻めることができます。

今回はUS発売に則りSand仕上げですが、まずはそのままドリルし投球して、噛みが強すぎるようであれば徐々に表面の光沢を上げていくことでお気に入りのリアクションに設定することが出来るでしょう。ミディアムクラスから下の領域はコンディションが見えてはいるけど、ピンに絡むボールが必ず重宝されます。KINETIC Core(旧Shuttle Core)がなせる業をこのようにときに活かすべきだと私は思います。

ミディアムコンディション対応だどうしても目先がHybridやPearlに向きがちですが、ポリッシュのSolid素材の方がかえって安定することがあると思います。強めのSolid素材でポリッシュ仕上げ。それで中身がKINETIC Coreであるならば、性能が読める方はこのボールを持つのではないかと思います。

特記事項

安定してミディアムコンディションを攻められるボールは常に持っておきたいもの。扱いやすく軌道が読みやすく、ピンに絡みやすいボール。それを埋めるのがKINETIC OBSIDIANだと思います。